～広がれ人権ネットワーク～
三木市人権啓発紙
2024 1月
No.510

隣保館だより

特集：総合隣保館文化祭

「隣保館だより」ホームページ（カラー版）
URL=https://www.city.miki.lg.jp/site/sougourinpokan/
QR コード⇒

年頭ごあいさつ　三木市立総合隣保館　館長　福寄　勇

2024

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられましたこととお慶び申しあげます。

昨年は、文化祭の記念講演を４年ぶりに隣保館で実施することができ、かつての活動がよみがえってきたと実感しております。

今年はさらに皆様のお力添えを賜りながら、さまざまな事業を展開していき、人権尊重の精神が日常生活の中で行動として現れる人権文化を進めるために努力してまいります。

今年も隣保館への変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

第 40 回文化祭　ご協力ありがとうございました

昨年 12 月、地域の皆様の参画を得て、「第 40 回総合隣保館文化祭」を開催しました。6 日からの作品展示に延べ 180 名、10 日の開会行事や記念講演等には 191 名と、たくさんの皆様にお越しいただき、大いに盛り上がりました。

次ページ「人権の小窓」は、文化祭で上演された人権劇「町の石ひ」の特集です。

RASH　オープニング

実行委員長　あいさつ

来賓　市長あいさつ

大空学級　詩吟

ねぇにぃーず　沖縄民謡

江嶋　修作氏　講演

杉の子座＆テアトロ三木　人権劇

～来場者の感想～

◎知り合いが増える作品展を引き続き行ってほしいと思う。
◎舞台発表は、それぞれ個性があり、素敵な発表だった。
◎人権劇「町の石ひ」、子どもたちと共に上演されたことはすばらしい取組だと感動した。
◎講演と言えば長い話、と思っていたが、笑いありの楽しい講演だった。
◎次回は、地域の歴史を紹介する展示がほしいと思った。

人権の小窓(261) 隣保館文化祭人権劇「町の石ひ」

杉の子座＆テアトロ三木　初のコラボが実現！

今回の人権劇「町の石ひ」は、「テアトロ三木」と杉の子学級の子どもたちの劇団「杉の子座」とが共同で創り上げるという初めての試みでした。このコラボがどのように実現したのか。そして子どもたちや劇団員たちはどう演じたのか。感想を聞きました。

＊＊共同公演を終えて＊＊

今年８月に劇団の仲間から杉の子学級がテアトロ三木とのコラボを考えていると聞き、私たちにも、また子どもたちにもきっといい経験になるとの思いで練習がスタートしました。劇のテーマは過去に何度か小学生が演じた地域教材「町の石ひ」。この劇を選んだのは、差別により貧しい生活を強いられていた地域の先達の何とかしたいという願いと努力により、今の私たちの生活があるということを、子どもたちにも伝えたいというのが一番の理由でした。

練習中に子どもたちが「なぜ共同公演を望んだか」を、指導されている藤原先生に聞きました。すると、「学級生が少ないこともありますが、何より観てくださる皆さんに良い劇を届けたいという思いが強い」とのことでした。胸が熱くなりましたね。

合同の練習は１週間前の練習と文化祭当日のリハーサルのみ。でも、結果はご覧いただいた通り、素晴らしい劇になったと思います。子どもたちの良い劇を演じたいという強い思いが私たちの心も動かし、心が一つになった瞬間だったと思います。

私は劇を演じていて一番心地よいのは演じた後の達成感です。子どもたちも私と同じ心地よい気持ちになっていることでしょう。

また一緒にやれたらいいな。

テアトロ三木　坂本　規

平右衛門のセリフを見てみると、思ったより多かったし、難しい劇で、今年はいつもとちがってテアトロ三木の方々とするので、不安でした。

本番は、大勢の人が見に来ていたのできんちょうしたけれど、成功してよかったです。また、一緒に劇をしたいなと思いました。（６年生）

セリフが長かったけれど、たくさん練習をしてがんばりました。できるだけ大きな声でセリフを言うということを特に意識してがんばりました。

げきをやっていくうちに、登場人物になりきってできるようになりました。（５年生）

学級生・交流生の減少により、文化祭の発表をどうするかということは大きな課題でした。今年の杉の子学級のテーマの中に、「みんなで」という言葉があります。テアトロ三木の方々と一緒に劇を創っていくことで、一つのことをみんなでやり遂げる楽しさや喜びも大きくなるのではないかと思い、依頼しました。

大人の劇団員の方々と共に、子どもたちは、とてもがんばりました。そして大きな成長を見せてくれました。

これからもいろいろな人とつながりを持ちながら活動していきます。

杉の子学級担当　藤原　美和

語り継ぐ「町の石ひ」

昨年の隣保館文化祭で上演された人権劇に登場する「石ひ」とは、明治時代、志染町の荒れ地を開墾し、村の窮乏を救った平右衛門（いえもん）さんの功績をたたえる頌徳碑（しょうとくひ）のことです。

この劇は、史実を聞き取った元小学校長赤松篤さんが、子どもたちに差別を乗り越え、あきらめずにやり通すことの大切さを伝えたいとの願いから、「この道に続け」というタイトルで脚本を制作し、一九九〇年に児童が上演したのが始まりです。後に、兵庫県教委の小学校高学年用教育資料「ほほえみ」の中で「町の石ひ」という教材として広く知られるようになりました。

隣保館では、この頌徳碑や水を通す役割を終えても当時の苦労がしのばれる手掘りのずい道（トンネル）や水路の跡などを見学するフィールドワークを通して、これらの史跡を「地域の誇り」として長く語り継いでいきます。

（写真）フィールドワークに参加した小学生
右上＝頌徳碑前で話を聞く　左下＝ずい道の入口を見学

「町の石ひ」

今から百四十年前、高台にあるこの村は、周りの村に比べて田んぼも少なく、また、土地はやせて水が不足し、米がとれませんでした。そのうえ、村人のほとんどが小作で、取れた米は地主に納めなければならず、手元にはわずかしか残りません。

ある時、平右衛門という若者が、

「山すその荒れ地を田んぼにできないか」

と一人で荒れ地の掘り起こしを始めました。そして、谷の池から水を引くずい道（トンネル）の掘り方を勉強したり、水を分けてくれるよう、周りの村に頼んで回ったりしました。村の仲間もそんな平右衛門の姿を見て何人かが手伝うようになりました。

周りの村の者は、何度頼んでもなかなか「うん」とは言わなかったのですが、ようやく、「大水の時、この村がつからんよう、あんたらの村に水を流す」という条件で、必要な分だけ水を分けてもらえるようになりました。

平右衛門たちは、これで荒れ地を切り開いた田んぼに水を引けるようになったので、

「自分たちの田んぼを作るんだ」

と、昼も夜もなく荒れ地を切り開き、田んぼに変えていきました。

とりわけ、「谷の池」から水を引く「ずい道」づくりは大工事で、百メートル以上もトンネルを掘り、田んぼまで用水路を作らなければなりません。長い年月をかけて作ったずい道や用水路でしたが、大水が出ると、谷の池から一斉に流される水があふれ、村中が水びたしになってしまいました。ずい道や用水路も無残に崩れ落ちてしまいました。

がっかりしていた平右衛門は、村の老人たちに、

「わしらみたいに長生きしとったらよくあることや。へこたれてどうする。」

と励まされ、大水の時に村が水につからないようにと、余分の水をためておくため池を作る工事にも取りかかりました。そうして十年という長い年月をかけて大変な工事をやり遂げました。

「よかったなあ。これはわしらの田んぼや。もう小作をせんでもええ。作った米みんなわしらのもんや。」

そう言って村人たちは、抱き合ってうれし涙を流しました。

（兵庫県教委平成十四年小学校高学年用教育資料「ほほえみ」より引用、要約して掲載）

隣保館カレンダー 1月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	月	元日　休館日	16	火	経営・職業相談 10:00～
2	火	休館日	17	水	
3	水	休館日	18	木	人権相談（三木市役所）13:00～16:00
4	木	仕事始め	19	金	経営・職業相談 10:00～
5	金	人権相談（緑が丘公民館）13:00～16:00	20	土	子ども教室（和室）9：30～11：30
6	土	書を楽しむきらきら教室 13:00～15:00	21	日	
7	日		22	月	茶道教室 9：00～ エアロビクス講座 14:30～15:30
8	月	成人の日	23	火	経営・職業相談 10:00～
9	火	経営・職業相談 10:00～	24	水	
10	水		25	木	手芸サークル 13:30～
11	木	手芸サークル 13:30～	26	金	経営・職業相談 10:00～
12	金	経営・職業相談 10:00～	27	土	人権フィールドワーク・人権教育指導員視察研修
13	土		28	日	
14	日		29	月	
15	月		30	火	経営・職業相談 10:00～
			31	水	

総合隣保館文化祭作品展示

これらは一部ですが、趣向を凝らした多くの作品が寄せられました。人権に関するメッセージや諸団体の生き生きとした活動の様子が伝わってきます。ありがとうございました。

人権啓発紙「隣保館だより」1月号
令和６年１月1日発行(毎月１日発行)
三木市市民生活部　人権推進課編集
〒673-0501 三木市志染町吉田 823
三木市立総合隣保館　TEL 82-8388
FAX 82-8658　E-mail:jinken@city.miki.lg.jp